

動物の診察室から

○ 74 ○

ゴールデンレトリバーの「ラフちゃん」は今年の2月に15歳になりました。大型犬としてはとても長生きです。今までご家族に子どものようにかわいがられ、大事にされてきたおかげで、大きな病気もなく過ごしてきました。

治療の第1選択は腫瘍を外科的に切除することです。しかし肥満細胞腫は周囲へも広がっているため、腫瘍の周りを広範囲に取る必要があります。

ラフちゃんに外科的手術をする場合には、後ろ



抗がん剤投与後の検診に来たラフちゃん

治療の選択

完治より普通の生活を

しかし、誕生日から1カ月たった頃、右の踵の上に大きなしこりができてきました。検査の結果は、肥満細胞腫でした。犬の肥満細胞腫は悪性の腫瘍です。太っているからなるのではなく、肥満細胞という名前の細胞が悪性化してどんどん増えてしまつたのです。何も

足の切断手術になりません。15歳のラフちゃんにとって、手術をして後ろ足がなくなることはよいことではありません。ご家族もそれは望んでいませんでした。

しかし、腫瘍はどんどん大きくなっていき、歩くのもつらそうです。この薬はとても高価な薬な家族は、15歳のラフちゃん

の寿命も短いことを知っています。でも、生きている間、なんとか足の腫瘍が大きくなるのを抑えて、薬に暮らしてほしいと考えています。

手術以外の治療では、内服薬のグリベック（イマチニブ）があります。この薬はとても高価な薬な効果は期待できません。

完治することは難しいと思いますが、ラフちゃんが生きている間、腫瘍が足にあっても、普通に歩いて生活ができればよいのです。

とても優しい、お母さま、お姉さまの愛情がラフちゃんを支えているのだと思います。

頑張ってくださいね！

この治療で

の肥満細胞腫には劇的な効果が期待されるのです。人も含め動物の体にはc-kitと言う遺伝子の1の大きさになり、歩くのも不自由がなくなりま

